

「国際物流総合展 2021 第2回 INNOVATION EXPO」に出展

運送・配送業界向けトータルソリューションサービス「ZENRIN ロジスティクスサービス」を紹介

株式会社ゼンリン(本社:福岡県北九州市、代表取締役社長:高山善司、以下ゼンリン)は、2021年10月13日(水)~10月15日(金)の期間、東京ビッグサイト(東京国際展示場)青海展示場にて開催される「国際物流総合展 2021 第2回 INNOVATION EXPO」に出展します。ゼンリンは、本イベントにて、運送・配送業務の平準化・効率化を支援するサービス「ZENRIN ロジスティクスサービス」を出展するほか、担当者による物流業界向けセミナーを開催し、企業での導入事例や新機能についてご紹介します。

※サービス担当者/広報担当による現地での取材対応が可能です。お気軽にお問い合わせください。



ゼンリン ブースイメージ図



詳細な位置情報とAIを組み合わせた最適な自動配車

■今回出展するサービス「ZENRIN ロジスティクスサービス」概要

「ZENRIN ロジスティクスサービス」は、近年の社会情勢の変動や小口配送の増加により、更なる業務効率化とコスト削減が重要課題とされている運送、配送業界向けのトータルソリューションサービスです。AI自動配車による運行計画から、ゼンリンの住宅地図データを活用したドア to ドア案内による最適ナビゲーション、リアルタイム動態管理による車両・業務進捗の可視化までを一気通貫で提供します。

2021年9月より新たに追加された「名寄せ機能」や「エリア分け機能」等の新機能と共に、あらゆる局面における業務効率化・平準化をサポートします。

POINT

- ◆ 運送・配送業界に求められる「業務効率化・コスト削減」を手助けするトータルソリューションサービス
- ◆ ゼンリンの詳細な位置情報とAIを組み合わせ、最適な自動配車計画を実現
- ◆ ①配車計画、②ナビゲーション、③動態管理まで、運送・配送業務の一連の流れを一気通貫でサポート
- ◆ 2021年9月に「エリア分け機能・名寄せ機能」等の新機能を追加。

【関連リンク】「ZENRIN ロジスティクスサービス」

<https://www.zenrin.co.jp/product/category/iot/industry/logistics/index.html>

【参考資料】

■「ZENRIN ロジスティクスサービス」の使用イメージ



▲ 配送先住所、制約、荷量等の情報をもとに、効率的な配車計画を AI が自動作成



▲ 配送予定の変更等が発生した場合、手動で配車計画を修正することも可能



▲ 作成した配車計画を、簡単にドライバーと共有でき、計画作成から運行指示まで、全てクラウドで管理することが可能



▲ 大型車両規制情報の対応に加え、ゼンリンの詳細な住宅地図がナビゲーションで利用可能

■開催概要

出展イベント	国際物流総合展 2021 第 2 回 INNOVATION EXPO : https://www.logis-tech-tokyo.gr.jp/ie/index.html		
日時	2021 年 10 月 13 日(水)～10 月 15 日(金) 10:00～17:00		
会場	東京ビッグサイト(東京国際展示場) 青海展示場 A・B ホール	入場登録料	3,000 円
ゼンリンブース位置	B-408		

※新型コロナウイルス感染防止策を徹底し、ブースの運営を行います。

■セミナー概要

タイトル	地図情報を活用した「配車計画×ナビゲーション」サービスの導入効果と事例の紹介		
開催日時	2021 年 10 月 13 日(水) 14:20～14:50	会場	セミナー会場(2) 1-F
登壇者	株式会社ゼンリン IoT 営業部 営業一課 二階堂 康平 株式会社ゼンリンデータコム パートナー事業本部 パートナー第二事業部 佃 友貴		
概要	<p>本講演では、お客様が抱えるさまざまな課題に対して、導入効果が表れた具体的な事例と、サービスの新機能についてご紹介いたします。</p> <p>【詳細】</p> <p>昨今、物流業界では、人手不足、高齢化や長時間労働、限定的なデジタル化、配車業務の属人化などの課題があります。そのような課題に対して、「配車計画」を自動で組みたい、コストを削減したい、「配車計画」と併せて「ナビゲーション」や「動態管理」を活用したいと考えている方にオススメな内容です。ZENRIN ロジスティクスサービスは、ゼンリンが保有する地図情報をもとに、さまざまな配送の形態・実態に合わせて、「配車計画」を AI により自動で策定することができます。それに加え、業界初の住宅地図のデータを搭載した「ナビゲーション」を「配車計画」と連動させて、ドライバーが端末で操作・確認することができます。</p>		